

早稲田大学 2022年度
一般選抜 商学部2022年度
国語
(問題)

〈R04162016〉

注意事項

- 1 試験開始の指示があるまで、問題冊子および解答用紙には手を触れないこと。
- 2 問題は2～10ページに記載されている。試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚損等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせること。
- 3 解答はすべてHBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルで記入すること。
- 4 マーク解答用紙記入上の注意
 - (1) 印刷されている受験番号が、自分の受験番号と一致していることを確認したうえで、氏名欄に氏名を記入すること。
 - (2) マーク欄にははつきりとマークすること。また、訂正する場合は、消しゴムで丁寧に、消し残しがないようによく消すこと。

マークする時	● 良い	○ 悪い	○ 悪い
マークを消す時	○ 良い	○ 悪い	○ 悪い

5 記述解答用紙記入上の注意

- (1) 記述解答用紙の所定欄(2カ所)に、氏名および受験番号を正確に丁寧に記入すること。
- (2) 所定欄以外に受験番号・氏名を記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。
- (3) 受験番号の記入にあたっては、次の数字見本にしたがい、読みやすいように、正確に丁寧に記入すること。

数字見本	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

- (4) 受験番号は右詰めで記入し、余白が生じる場合でも受験番号の前に「0」を記入しないこと。

(例)

3 8 2 5 番

↓

万	千	百	十	一
	3	8	2	5

- 6 解答はすべて所定の解答欄に記入すること。所定欄以外に何かを記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。
- 7 試験終了の指示が出たら、すぐに解答をやめ、筆記用具を置き解答用紙を裏返しにすること。
- 8 いかなる場合でも、解答用紙は必ず提出すること。

次の文章は、安楽死や尊厳死について論じた文章から一部を抜粋したものである。これを読んで、あとの問いに答えよ。

今日、われわれは、何か判断したり論じたりするときに、いわゆる人間中心主義（ヒューマニズム）と呼ばれる近代的価値観を前提にしている。いつてみれば、今日のわれわれの倫理学の教科書には、大書してこの近代的ヒューマニズムが掲げられており、ヒューマニズムに反する論議など論外であつて、あらかじめ排除されてしまう。教科書は個人の生命と自由、幸福を追求する権利、そして一人一人の人格が平等に尊重されなければならない。これは絶対的で普遍的な価値である。と。

少し分解していえば、ここには次のような価値が含まれているといつてよいだろう。生命尊重、人格尊重、個人的自由、自己決定、幸福追求の権利、これらの権利の平等性、そしてその権利の絶対的正当性、といったことだ。

われわれはそれを疑いのないものとしている。しかし、この近代的価値はどうも「死」という人間の根源的な事実の前にすると、ほとんど無力になってしまう。いやそれどころではない。この近代的価値こそが、むしろ「死の問題」を相対に複雑で解決困難なものにしているのではないだろうか、とも思えてくる。

たとえば、生命尊重を無条件で絶対的とみなしたとしよう。すると、われわれは心臓が拍動している限り、意識があらうがなかろうが、植物的にベッドに転がされていようが、いかなる状態にあつても延命処置をほどこされることになる。これが無条件の生命尊重の帰結であり、安楽死や尊厳死の問題は、まさしくそのような状態が耐え難いものとなつたからこそ出てきたのであつた。

しかし同時に、人は「人格として尊重されるべき」だともいわれる。とすれば、そもそも「人格」とは何かが問われることになる。植物的状態に置かれ、生命維持装置によって生きながらえるのは果たして「人格」を尊重されているのか、と誰しもうが思う。「植物」に人格がないのは当然として、「植物的」ならどうか。これは悪いジョウダンに聞こえるであろうが、われわれはこの種のジョウダンをまじめに問わなければならなくなつてしまつた。「尊厳死」という言葉を私は好まないが、それでもここで「尊厳」という言葉が使われるのは、まさに、このような終末が「人格の尊厳」なのかという問いを發したくなるからである。

したがつて、安楽死問題は、一方で、現代の医療技術の想定外の進歩の結果、人は簡単には死ねなくなつてしまつた結果である。と同時に、そこには、この近代的価値そのものが深く関わつてゐることにもなる。繰り返すが、それは一方では生命尊重を高々と掲げ、他方では、自己決定や自己の幸福追求権を掲げ、この両者がまったく対立してしまふのである。だから、この近代的価値をもつてきて、安楽死問題に答えをだそうとしても無理な話である。

しかもこの場合、生命尊重は、いろいろある近代的諸価値のなかのひとつというようなものではなく、²何ものにも代えがたい重みをもっているのだ。それは、近代のすべての価値の重心なのであつて、ヒューマニズムの核心的価値なのだ。だから、いかなる形であれ、他人の生命の抹消に関わる行為はまずは殺人とみなされ、最高度の犯罪とされる。

ともあれ、生命尊重が安楽死問題に関してかなり厳しいハードルになつてゐるのは、それを破ることが殺人罪という重罰に問われかねないからだ。保険金目当ての計画的殺人であれ、路上での衝動的殺人であれ、親分を殺されたヤクザの復讐であれ、そしてみるにみかねた囑託殺人であれ、法的にはすべて殺人なのである。欧州における安楽死の先進国とされるオランダでは、1971年に、苦痛にあえぎ、しかもたびたび自分を殺してくれとアイガンする母親を、ある女性医師が安楽死させたポストマ事件があつた。彼女は囑託殺人に問われ有罪となつた。しかし、その判決には、次の条件を満たせば安楽死は殺人にはならない、という文言が附加された。それは、患者が病気に耐えがたく、病気の回復が見込めないことを複数の医師が判断し、しかも患者に明快な自死の要求がある場合には犯罪にはあたらない、としたのである。

こうして、オランダやスイス、そしてアメリカのいくつかの州では、安楽死は容認、つまり一定の条件を満たせば殺人とはみなさない、という法的判断が打ち出された。耐え難い苦痛からの脱出の最終手段としての自死という自己決定を、一定の条件のもとで優先するという一種の妥協であり、あるいは例外措置である。

しかし、ここに実は、正面からは語られていないきわめて重要なことが隠されている。

もう一度述べると、多くの安楽死問題は、「生命尊重の権利」と「自己の幸福に関する自己決定の権利」の対立として理解される。いま私が述べてきたのもそのことであつた。このふたつの権利は、絶対王政から解放された近代の入り

口にあつては、別に矛盾でも何でもなかった。「自己の幸福追求」は「生存」を前提としているからである。しかし、それから200年以上もたった今日、このふたつの権利は、安楽死のような状況では、原則的に調停不可能となった。だから、一定の条件では法的裁可を問わない、という妥協と例外措置になったのである。しかし、問題はそれだけだろうか。

近代的価値の核心は、もう一度列挙すると次のようなものである。「生命尊重」「自己決定」「自己の幸福追求の自由」そしてもうひとつ「人格としての尊重」である。もつとも、「人格としての尊重」の中に「生命尊重」も「自己決定」「幸福追求」も含まれると考えれば、近代社会の基本的価値は、「個人の人格の尊重」に集約されるといつてもよい。ところが安楽死の問題は、「個人の人格の尊重」では話が片付かないのである。「人格としての尊重」といつても、一方には「生命尊重」があり、他方には「自己決定」プラス「幸福追求の自由」があつて、この両者の間の対立が生じる。苦痛の極限では「死」こそが **I** という事態が生じるからである。

しかも、ここにもうひとつの「人格としての尊重」がある。これは、たとえば、ある人の生命は保障するが半ば奴隷状態におかれる、あるいは、その意思を催眠にかけたかのように管理してしまう、といった事態であり、それでは「生命尊重」には反しないとしても「人格尊重」とはともいえない。また、生命も自由も与えられているが、徹底して侮辱され自尊心を破壊され、恥辱を与えられれば、これも「人格尊重」とはいえない。人は徹底的に誇りを傷つけられて自殺することもあるのだ。

つまり、「人格の尊重」とは、ただ人が生きることを尊重するのではなく、 **II** として尊重する、ということである。でなければ、とてつもない極悪人の「人格」も十分尊重されねばならないということになるであろう。

とはいえ、「 **III** として尊重する」とはどういうことなのだろうか。

そもそも「人格」とは難しい言葉である。哲学者のイマヌエル・カント（1724-1804）が『実践理性批判』などにおいて、人格の尊重を絶対的な価値として主張した時には、ただ生命の維持だけではなく、他者に対するそれなりの敬意や、人間としての尊厳の尊重という意味を含んでいた。ということは、人は、人格として尊重されるには、それなりの「人格の持ち主」でなければならないということなのである。これは大事な論点である。

「人格の尊厳」とは「デイクニティ (dignity)」である。デイクニティとは、もともと中世からルネサンスにかけてのヨーロッパにおいて、人間がそこに存在する限り認められるべき固有の価値、という意味を帯びてきたようだが、少なくともカント以降の近代社会においては、「人間として存在する限り尊重されるべき絶対的な価値」とみなされるようになった。

しかしその場合に、「尊重される」とはどういうことなのか。これも決して容易な問題ではない。もともと「デイクニティ」のもととなるラテン語「デイクニタス (dignitas)」には、「……に値する (worth)」という意味が含まれていた。もつといえ、尊重に値する「敬意を払うに値する」という意味がフズイしていた。だから、「人格の尊厳」とは、ただただ生きているがゆえにそこにある権利、などというのではなく、「尊重に値するがゆえに与えられる権利」といわねばならない。

そしてこのことを意味するであろう。「敬意を払うに値する」といつた時には、当然ながらそこに自分と他者の関係が前提となつていゝ。この世に一人で生きて、「自分は敬意を払うに値する」などと独善に陥つても敬意は払われない。当たり前のことであろう。敬意とは当然、他者による敬意であり、そこに他者の目があり、他者との関係がある。簡単にいえば「社会」がある。社会のなかで一定の役割を果たす。他人にとって意味ある行為を行う。与えられた使命をまっとうする。何らかの意味で他人によって、社会的存在として認められる。つまり、人は「社会的」に意味ある存在でなければならない。(イ)

いずれにせよ、ここでは、他者に一定の働きかけを行い、それを他者によって評価される、という関係がなければならない。ということは、他者との共同関係の中で評価されたり非難される価値があるということだ。それは「善」や「悪」と呼ばれるものである。ここでは「善きもの」や「善き行為」が前提になっており、何らかの共有された「善」があり、それに関わる限りで尊重されるべき人格が現れてくるのである。(ロ)

ローマ人にとってデイクニタスとは、優れた市民や力と徳（ヴィルトウス）に満ちた勇者に与えられる名誉と切り離せなかったであろうし、古代ギリシャにおいても、名誉に値する者とは、徳をもち、弁舌さわやかに人を説得できる者であつたろう。今日のわれわれは、もはや古代のローマ人のように、戦場での勇者や教養溢れる市民などというものに

ディグニティを感じることはめずらしいとしても、それでも、それなりの「敬意に値する者」という観念から自由であるわけではない。アメリカの大統領になるには、大統領に「IV」かどうかはやはり問題になる。学校の教師が特に強い倫理性を求められるのは、やはり、子供を指導するに「V」「人格が求められるからである。(ハ)

いや、このことに古代も近代もあるまい。人間が他者と共存して共同する限り、何らかの「敬意に値する」という観念が生まれるのは必定であり、「人格を尊重する」というディグニティの意識もここに生み出される。具体的な内容は、その社会のもつ伝統や状況によって決まるとしても、ディグニティを根本から失う社会はありえない。よかれあしかれ、何らかの「立派な人」や「立派な行い」という観念も、名譽の観念もたない社会など存在しない。(二)

にもかかわらず、やっかいなのは、これを少し裏返してみれば、そこに恐るべき裏面がみえてくるからだ。それはほんの少し考えを巡らせてみればすぐわかる。なぜなら、「人格の尊重」というならば、「人格の破綻者」は尊重される必要はない、ということになりかねないからだ。どうみても人格が破綻した者がいる、人格を疑いたくなる者がいるとして、彼を排除してよいのだろうか。近代ヒューマニズムといえど誰も疑おうとはしないが、実は、ヒューマニズムの裏側には恐るべきからくりが仕掛けられている。(ホ)

「人格の尊重」を、他者からの尊重に値するという前提で論じれば、社会的コミュニケーションがとれなくなった者はもはや尊重に値しないのか。こういう疑問がでてくるであろう。実は、ここに安楽死を考える重要な糸口もある。いや、それ以上といわねばならない。なぜなら、この問いは、安楽死には限られなくなってしまうからだ。ここでわれわれは、様々な意味で「VI」
「というまことにやっかいな問題を提起してしまったことになる。」

(佐伯啓思『死にかた論』による)

問一 傍線部 a、c の片仮名を、漢字(楷書)で解答欄に記せ。

問二 傍線部 1 「この近代的価値こそが、むしろ「死の問題」を相当に複雑で解決困難なものにしている」とは、どのようなことか。最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 自己の幸福追求を絶対的な基準とした場合、人間の死という根源的な事実の重さに対して、様々な権利の正当性も有効には働かないということ。

ロ 安楽死や尊厳死の問題は、医療の発達によって生じた現代的な課題であり、科学技術の進歩の前にと生命尊重という近代的価値が相対化されるということ。

ハ 生命尊重を絶対的な基準とした場合、人間としての尊厳を損なう状態に置かれたとしても延命が優先され、他の近代的価値と対立する事態が生じるということ。

二 自己決定に基づく安楽死の問題は、近代的価値の視点から見た場合、人格を持った人間が植物状態に置かれることへの拒否権の発動として意味づけられるということ。

問三 傍線部 2 「何ものにも代えがたい重みをもっている」のはなぜか。最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 安楽死という自己決定は、生命並びに個性尊重というヒューマニズムを前提に意味づけられたものだから。

ロ 人間の自由や自己決定、幸福追求といった近代的な諸価値は、その根底に人間の生命の尊重があるから。

ハ 他人の生命を奪うことを最高度の犯罪とみなす近代社会では、社会の安定を維持する上で何よりも自他の生命が尊重されるから。

二 近代社会におけるヒューマニズムは、他者の生命を尊重するという倫理観によって社会秩序が維持されているから。

問四 傍線部3「安楽死のような状況では、原則的に調停不可能となった」とは、どのようなことか。最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 人間にとって重要な二つの価値が対立する事態となった場合、例外を設けない限り二つの権利は両立できなくなったということ。

ロ 人間にとって重要な二つの価値が対立する事態となった場合、人間性に反しない限り自己決定権が優先されるようになったということ。

ハ 生命尊重よりも自己決定を優先させようとするれば、殺人とみなされていた事例も法的解釈を変更して無罪となる事態が生じるということ。

ニ 生命尊重よりも自己決定を優先させようとするれば、近代的価値の体系が崩れ、個人の自由や平等といった諸権利が失われるということ。

問五 空欄 I に入る最も適切な漢字二字を本文中から抜き出し、解答欄に記せ。

問六 空欄 II と空欄 III に共通して入る語句として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 優れた性格の持ち主

ロ 一人の人格の持ち主

ハ 社交的な人格の持ち主

ニ 他者を尊重する人格の持ち主

問七 文中から次の一文が脱落している。次の文が入る場所として最も適切なのは、(イ) (ホ) のうちどこか。最も適切なものを一つ選び、解答欄にマークせよ。

だからこそ、確かに「人格の尊重」は普遍的といってよい。

問八 傍線部4「それに関わる限りで尊重されるべき人格が現れてくる」とはどのようなことか。最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 善や悪の価値基準が共有された共同体の中から、デイグニティを身に付けた社会的な指導者が生まれてくるということ。

ロ 古代社会のデイグニティと同様に、今日でも社会的な共同を志向する限りにおいて人格形成がなされるということ。

ハ 人間は社会の中で一定の役割を果たすことでデイグニティが芽生え、結果としてその社会における善悪の基準が形成されるということ。

ニ 他者との関係を築いていこうとする中で、何らかの「善」が共有されることによってデイグニティが発生するということ。

問九 空欄 IV と空欄 V に共通して入る最も適切な形容詞を、ひらがな五文字で解答欄に記せ。

問十 空欄 VI に入る語句として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 生きるに値しない人間の生

ロ 幸福追求を諦めた人間の生

ハ 自己決定を手放した人間の生

ニ 他者の命を否定する人間の生

問十一

本文の内容と合致するものはどれか。最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 普遍的な価値である「人格の尊厳」は、古代ギリシャでもヒューマニズムの中心に置かれてきたが、他者との共同関係がより複雑化した近代社会では、他の諸価値より優先されるようになった。

ロ 安楽死の問題は、現代の医療技術の進歩によってもたらされた当然の結果であり、人間が簡単には死ねなくなつたことは、テクノロジーとヒューマニズムの対立という新たな難問を提起した。

ハ 医療が発達し、人間存在が生でも死でもない不安定な状態に置かれたことに対して、自己決定や生命尊重といった近代的価値を用いて答えを出そうとしても困難である。

ニ 近代社会は個人の生命を大切にしてきたが、その裏側では優れた人格だけを尊重しようとする意識が醸成されており、古代社会が求める名誉に値する者とは異質な「人格」が現れている。

次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

また太政の大臣の御子にては、右大臣雅定と申して、前にも舞人のこと申し侍る、中院の大臣とおはしき。御母、加賀兵衛とかいひしがいもうとにて、下臈女房におはせしかど、兄の大納言よりもおほえもおはし、もてなし申し給ひき。この大臣は才もおはして、公事などもよくつかへ給ひけり。^(注1)笙の笛などすぐれ給へりける。時元とて侍りしを、すこしもたがへずうつし給へるとぞ。まじりまるといふ笛をも伝へ給へり。まじりまるとは、唐の竹、大和の竹の中に、すぐれたる音なるを選び作りたるとなむ。

まじりまるといふ笙の笛は二つぞ侍るなる。時元が兄にて時忠といひしも、作り伝へ侍るなり。^(注2)むらといひて、稲荷祭などいふ祭わたるものの、吹きてわたりける笛の、響きことなる竹のまじりて聞え侍りければ、棧敷にて、時忠呼びよせて、「かかるとはれには、同じくは、かやうの笛をこそ吹かめ」とて、わが笛にとりかへて、「我をば見知りたるらむ、後にとりかへむ」といひければ、むらの男喜びて、「みな見知りたてまつれり」とて、とりかへたりけるを、すぐれたる響きありける竹を抜きかへて、^(注3)「ならず調べ立ててたびたりければ、喜びてかへしえてなむ侍りける。そのまじりまるとは、時忠が子の時秀といひしが伝へ侍りしを、子も侍らざりしかば、この頃は誰か伝へ侍らむ。

時忠は刑部丞義光といひし源氏の武者の、好み侍りしに教へて、その笛をもとよりとりこめて侍りけるほど、義光あづまの方へまかりけるに、時忠も、「いかでか年ごろの本意に送り申さざらむ」とて、はるばると行きけるを、「この笛のことを思ふにや」とや心得けむ。^(注4)「わが身はいかでもありなむ。道の人のにて、この笛をいかでか伝へざらむ」とて、返したびたりければ、それよりこそ暇請ひてかへりのほりにけれ。その笛をかくたしなみたれども、時元若かりける時、武能といひて、^(注5)「ならず笛調ぶる道の者ありけるが、年たけて、夜道たどたどしきに、時元手をひきつつまかりければ、いとうれしく思ひて、^(注6)「ならず調ぶるやうども伝へて侍りければにや、いとことなる音ある笛になむ侍るなる。

(『今鏡』より)

(注1) 笙の笛：雅楽に用いる管楽器の一つ。環状に立て並べた長短十七本の竹管と吹き口のついた匏^{ぼく}とからなり、吹奏する。

(注2) むら：祭りの場などで演奏する民間の音楽集団。

問十二 傍線部1「兄の大納言よりもおほえもおはし、もてなし申し給ひき」の解釈として、最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 右大臣雅定は、兄の大納言よりも母から愛されていたので、母を大切にお世話申し上げた。
- ロ 右大臣雅定の母は、兄の大納言よりも雅定を愛していたので、雅定を大切にお世話申し上げた。
- ハ 右大臣雅定は、兄の大納言よりも信望もありになり、太政大臣は雅定を大切にお世話申し上げた。
- ニ 右大臣雅定は、兄の大納言よりも才能があり優れていたで、太政大臣を大切にお世話申し上げた。
- ホ 右大臣雅定の母は、兄の大納言よりも父の太政大臣に愛されていたので、太政大臣を大切にお世話申し上げた。

問十三 傍線部2「かやうの笛をこそ吹かめ」の解釈として、最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ このような笛を吹きたい。
- ロ このような笛を吹くだろう。
- ハ このような笛を吹くはずだ。
- ニ このような笛を吹くのがよからう。
- ホ このような笛を吹くことがあろうか。

問十四 傍線部 A「() ならず」(三箇所) が、「なんとも言えないほど」という意味になるように、() に入る語として、最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ え □ な ハ いと ニ こと ホ ゆめ

問十五 傍線部 3「心得」の終止形を、ひらがなで解答欄に記せ。

問十六 傍線部 4「わが身はいかでもありなむ。道の人にて、この笛をいかでか伝へざらむ」の解釈として、最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 私はどうしたらよいのだろう。東国の人々にこの笛の音を伝えなくてはいけないのに。

□ 私のことはどうでもよからう。笛の笛の専門家として、この笛をどうして伝えないことがあるうか。

ハ 私はどうなってしまうかわからない。旅の途中だけれど、なんとかしてこの人に笛の調べを伝えたい。

ニ 私のことはどうなってもかまわない。この人も笛の笛の専門家であるから、この笛の調べを世に伝えなくてはならないはずだ。

ホ 私はどうなってしまうかわからない。わざわざ遠くまで見送りに来てくれたお礼に、なんとかしてこの笛を伝えたいものだ。

問十七 傍線部 5「笛」とはどの笛か。最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 時忠が作ったまじりまろ。

□ 武能が持っていた笙の笛。

ハ 刑部丞義光が作った笙の笛。

ニ むらの男の持っていた笙の笛。

ホ 右大臣雅定に伝わったまじりまろ。

問十八 本文の内容と合致するものとして、最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ むらの男は、有名な時忠の吹く笙の笛を思わず手に入れることができたので、たいへんに喜んだ。

□ 時忠は、むらの男の笙の笛の竹が欲しかったので、ことわりもなく別の竹と入れ替えて手に入れた。

ハ むらの男が吹く笙の笛は、音程の異なる竹が混じっていて、祭りの場にはふさわしくなかったので、時忠が自分の笙の笛と交換してやった。

ニ 刑部丞義光は、時忠から時秀に伝わり、その後行方不明になっていたまじりまろを、密かに手に入っていた。ホ 右大臣雅定は、時元が持っていたまじりまろをそっくり真似して作ったもう一つのまじりまろを持っていた。

次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。なお、設問の都合上、返り点・送り仮名を省いたところがある。

※この問題は、著作権の関係により掲載ができません。

〔蘇轍「黄州快哉亭記」より〕

〔注〕 楚襄王…戦国時代の大國楚の王。 宋玉・景差…ともに襄王に仕えた楚の臣下で、文学の才に長じた。

蘭台…宮殿の名。

問十九 傍線部1「寡人所与庶人共者耶」の解釈として最も適切なものを、次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ (この心地よさを) 庶民と楽しめるのはわたしだけなのだろう。
- ロ (この心地よさを) 庶民と共有できる人はとても少ないのだろう。
- ハ (この風は) わたしと庶民とがともに楽しめるものなのだろう。
- ニ (この風は) わたしから庶民への贈り物といってよいものだろう。

問二十 空欄

A

B

には、二字の同じ語が入る。次の中から最も適切なものを一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 何必 ロ 庶幾 ハ 是以 ニ 何為 ホ 所以

問二十一 傍線部2「風何与焉」の読み方として最も適切なものを、次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ かぜなんぞあづからんや。
- ロ かぜなんぞともにせんや。
- ハ かぜなにかくみせんや。
- ニ かぜいづくにあたへんや。
- ホ かぜなにをかあたへんや。

問二十二 本文の内容と合致しないものを、次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 心地よいと感じるかどうかは、吹く風の種類によるのではなく、風に吹かれた人の境遇如何にかかっている。

ロ 宋玉は、王に吹く風と庶民に吹く風とでは風の種類が違い、庶民には王に吹く風をとうてい味わうことができない、と暗に批判した。

ハ 宋玉の発言の中に物事の本質が含まれており、風に吹かれた時の感じ方は、結局のところ、その人の身分の相違によって決まってくる。

ニ 民の上に立つ士であれ、ひどい境遇に置かれ自尊心が挫かれたならば、どんなに景観にすぐれる場所へ行っても、心ふさいで「快哉」とは叫べなくなる。

ホ 宋玉の発言は、襄王の思ひ上がりを諷めるという点で一定の効果があつたかもしれないが、風を快いと感じるか否かの原因の説明としては合理性に欠けている。

〔以下 余白〕

a

b

1881

C

1885

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----

11

受験番号	万	千	百	十	一
氏名					

受験番号	万	千	百	十	一
氏名					

(注意) ・ 所定欄以外に受験番号・氏名を記入してはならない。
記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。

問

問
五

問
九

問十五